



第27回 中学生大使派遣事業

フードリバー訪問記

2011.3.11 ~ 3.21

第27回中学生大使18人が、3月11日から11日間の日程で、姉妹都市の米国オレゴン州フードリバーを訪問してきました。生徒たちは文化や言語の違いを乗り越えて、はるか1万キロ離れた大地で友情をはぐくみ、多くの大切なことを学び、忘れられないたくさん思い出を作りました。

今月号では、そのフードリバーでの様子と中学生大使の体験記をご紹介します。

心の温かさに感動



北谷 公亮

9日間のフードリバーでの生活で、ビックリすることはたくさんありましたが、不思議にやだなあと感じることや、馴染めないなあと思うことは一つもありませんでした。

なぜなら、フードリバーの皆さん一人一人がぼくたちに優しく接してくれて、毎日楽しい生活を送れたからです。一緒にいるときが一番良かったホストファミリーは、慣れないぼくたちの英語を必死に理解しようとしてくれた上に、明日の連絡などをぼくたちに分かるようにわざわざ日本語を調べて、紙に明日一日のスケジュールなどを教えてくれました。学校の人だっただけで、全員の「ハロー」といってくれます。学校1日目に名前を聞いてきた子は2日目にはすっかり覚えてくれていました。とても嬉しかったです。道行く人も、笑顔であいさつはもちろんで、その他にも気軽に声を掛けてくれます。フードリバーにいると自然とこちらも笑顔で過ごしていました。

日本もフードリバーを見習って心が温かい人だらけになったら、どれほど素晴らしい国になるでしょう。フードリバーの方々の心の温かさにふれて、とても感動でき、これから自分に役立つことがたくさんあります。

このようにフードリバー体験という素晴らしい機会をつくってくれた鶴田町の皆さま、本当にありがとうございました。



・ホームステイ先で家族と一緒に

フードリバーの思い出



上原 昌

成田空港へ着き飛行機の時間まで待っていると、震度5弱という巨大地震に見舞われて、とてもびっくりしました。その後、機内へ避難し、5時間待った未だフライトできませんでした。

無事フードリバーに着きホストファミリーと会いました。その後、土曜日、日曜日は、いろいろなところに連れて行ってもらいました。この2日間で、ホストファミリーとかなりとけ込めました。

次の日から中学校に行きました。アメリカは最新機器を使っているスノーボードに進んでいました。放課後にローラースケートやボウリングもやりました。

次の日はショッピングをしました。その日は、3つの小学校を訪問し、ダウンタウンを自由散策しました。ホストファミリーとふれあえる最後の日は、マウントフォードのスキー場へ行きスノーボードをしました。その後お別れパーティーをして、次の日ついに別れのとき、涙が出てしまいました。あつこつ間の10日間でした。フードリバーには、日本と違う家庭の温かさがありました。なのでぼくは、こんな家庭が築けたらなあと思っています。

またいつか、絶対にフードリバーに行きます。すごい体験ができて良かったです。



・ホームステイ先で家族と一緒に

国境を越えての友達



岩下明日香

日本以外の国に行き一番驚いたのは誰でも気軽に声を掛けてくれることでした。自分から声を掛けようという目標をすっかり忘れ、ただホームステイ先の子の後を追うことしかできませんでした。

中学校訪問の日、突然背後から英語発音の「コンニチハ」と声が聞こえてきました。笑顔とはいえない笑顔をつくって「こんにちは」と返しました。無表情からいきなり作り笑いになったら怖いだらうなと思い、それからはなるべく笑顔でいるようにしました。

普段の生活や中学校訪問で英語を使うのは、はじめは少し難しいことでした。イエス・ノー以外の返答をするときは、日本語発音の英語で途切れ途切れに言っていました。その分がりにくいわたしの英語をフッドリバーの人は理解してくれました。だから、わたしは、自分のただどどしい英語に少し自信を持てるようになった。

こうしてわたしは、言葉という壁を乗り越えて友だちをつくることができました。笑顔と積極性があれば、どんな国の人とも仲良くなれることが分かりました。

これから、アメリカでできた友だちと連絡を取り合って生きたいと思っています。



・訪問先の中学校で

感謝の気持ち



太田 道也

3月11日、国際交流会館での結団式を終え、空港に向かいました。成田空港では東北関東大震災に見舞われ、その影響で出発が5時間も遅れました。でも、無事に離陸してついにフッドリバー市の地に立つことができたので良かったです。本当にみんな無事で何よりでした。

フッドリバーに着くと、たくさんフッドリバーの人たちが温かく迎えてくれました。フッドリバーでは、ローリースケートやボウリングをしたりフッドリバー中学校と一緒に登校したり、ポートルランドでショッピングをしてアメリカンなものをいっぱい買ったり、スキー&スノーボードなど、いろいろなことでフッドリバーの人たちと交流を深めていきました。

特に心に残っていることは、やっぱりホストファミリーとともに過ごした生活が一番の思い出です。一緒にご飯を食べたり、話したり、学校で勉強したり、遊んだり笑い合ったりして、そんな些細なことをすべてが宝物です。

このフッドリバー訪問に関わったすべての人たち、自分のわがままを素直に聞いてくれたお父さん、お母さん、そして本当の家族のように接してくれ、お世話になった、ホストファミリーの皆さん、本当に感謝の気持ちでいっぱい입니다。



・ホームステイ先で家族と一緒に

思い出



野宮 陵

ぼくは、フッドリバーで9日間を過ごしてたくさん学び、たくさん楽しみました。

まず、学んだことは文化の違いです。見つけた文化の違いの一つは、朝食がパンと肉と牛乳の3つが必ずということを見つけました。そのほかにもいろいろありました。

楽しかったことはローリースケートとスノーボードです。ローリースケートでは初め転んでばかりでしたが、だんだん慣れてきて滑れるようになりました。フッドリバーの子もたちがとても上手で友だちとつながって滑ったりとても楽しめました。スノーボードも初めての体験でしたが意外と滑れてよかったです。またスノーボードの先生に教えてもらいさらに滑れるようになって楽しさが増し、友だちと競ったりして最高の一日になりました。日本に帰ってもぜひやりたいと思います。2つの活動でも文化交流を深めることができましたと思います。

ホストファミリーなどと一緒に過ごして、本場の英語を話して英語が上達したと思います。出発するとき大地震がやってきて、一時はどつなるかと思いましたが、フッドリバーに行きたくさんの人たちがくれあえて充実した訪問になりました。

また行く機会があったらもう英語を話せるようになると思います。



・仲間たちとローリースケート

フッドリバーに行つて



木村 美南

出発の朝、結団式を終えてバスに乗り、青森空港から羽田空港、それからバスで成田空港へ。その空港で起こったのが地震でした。空港の中は天井や壁が壊れるほどゆれました。こんな地震は初めてだったのですごく怖かったです。

地震の影響で5時間遅れでしたが無事ポートルランドに着くことができました。空港からバスで1時間かけてフッドリバーに着きました。到着した広場にはもうホストファミリーが来ていました。スピーチなどが終わってホストファミリーの人と対面したとき、すごく優しいな家族だなあと感じました。2日目、午前中マルトノマの滝に行き、午後はバスタを廻り作りました。すごく楽しかったです。

4日目は、ホストファミリーのエレンと中学校に行きました。エレンの友だちはとも優しくおもてなしてくれました。放課後はローリースケートをしました。体育館に着いたときあまり人が多くなかったのですが、ホストファミリーの友だちとバスケットをしました。6日目はポートルランドのショッピングセンターに行きました。日本ではないような物がたくさん並んでいてとても楽しかったです。フッドリバーでつくった思い出は決して忘れません。



・ホームステイ先で家族と一緒に

文化の違い



渋谷 拓世

ぼくはアメリカで貴重な体験をし日本とアメリカの文化の違いをたくさん見つけることができました。

その中で特に驚いたのが、ぼくのホストファミリーが通っている中学校についてでした。アメリカでは9月に入学期があり、学期は前期と後期の2つに分かれています。授業時間は日本より長いですが、授業中にお菓子を食べたり曲を聴いている人がいてアメリカの学校は自由なんだなあと感じました。

食に関する文化も見つけました。日本では魚や野菜を主に食べますが、アメリカではあまり食べず、肉類やポテト、ピザなどを食べます。

食べ物はずいぶんおいしかったのですが、ぼくは日本の食べ物の方が好きでした。ぼくはフッドリバーを訪れてアメリカの人はとても友好的で優しいなあと感じました。英語で話すのは難しく、聞いて、考え、答えを導き出すのにも苦労しましたが、慣れてくると相手が何を言っているのかが分かるようになってきました。コミュニケーションをとることはとても大事なことなんだなあと実感しました。



・ボウリング場で仲間たちと



①訪問先の小学校で大歓迎された中学生大使、手づくりの横断幕に感動しました
 ②1人ずつ名前の書いた紙を持って出迎えてくれたホームステイ先の子どもたち
 ③小学校訪問では子どもたちにけん玉を教えてあげました
 ④レイ・ヤスイ氏の墓前に献花して全員で合掌
 ⑤震災で成田空港が騒然となり出発が危ぶまれました（町と連絡をとる添乗員の熊谷さん）
 ⑥さよならパーティーの最後に全員で日本の歌を歌いました。涙があふれでてきました

期待と不安を胸に日本を出発しました。ホストファミリーとフッドリバーの方々に温かく迎えられ、その不安はすぐに消えました。ホストファミリーはとても優しくすぐにうち解けることができました。初めはなかなか分からなかつた英語も、積極的に話しかけていくうちにうまく会話ができるようになってきました。ホストファミリーの仲は明るくかわいいいい13歳の女の子です。エレンにはたくさんのお友だちがいて、わたしに紹介してくれました。おかげでフッドリバーにたくさんのお友だちができました。一番楽しかったのは、フッドリバー中学校の訪問です。生徒はみんなフッドリバーで、誰にでも気さくに声を掛けてくれて話が弾み、とても楽しかったです。驚いたことは、学校にピアスやマニキュアも当たり前だし、授業中お菓子を食べたり音楽を聴いたりするのも太夫みたいで驚きました。わたしは、フッドリバー訪問でいろいろのことを学び経験することができました。文化や言葉の違いはあってもみんな温かく接してくれて、住んでいる国は関係ないということを実感しました。

この貴重な経験は、これからの生活に役立つと思います。フッドリバーに行くのが楽しみです。今回お世話になった方々に感謝しています。



・ホームステイ先で家族と



・ホームステイ先の家族と

訪問中は、レイ・ヤスイさんのお墓参りの日、ポートランドでのお買い物、小学校訪問、ダウンタウンでの自由散策、スキヤスノボードなどを行いました。また、最後の夜はサヨナラパーティーで交流を深めました。最終日フッドリバーを出発するときホストファミリーの方と分かれるのが辛くて涙が止まりませんでした。この訪問で体験したことをこれからの生活の中で役立てていけたらいいなと思います。



・ホームステイ先の家族と

フッドリバー最高



小坂 麗

フッドリバーの思い出



藤田 真綾

すべてが初体験



長尾 珠羅

私たちのフッドリバー訪問は、成田空港での地震で始まりました。飛行機に乗るために待っている少し揺れました。それから10秒くらいして大きな揺れがきました。みんな早く飛行機に乗って飛び立ちたいと言っていたけれど、離陸したのはそれから5時間経ってからでした。でも、無事にフッドリバーに到着できたので、とても怖い体験でしたがいい思い出になりました。9日間のフッドリバーでの生活の中で一番思い出に残っていることは、フッドリバー中学校に行ったときのことです。驚くことがたくさんあり、音楽の授業では、サクソフォンなど結構本格的な物を使っていました。あと、何の授業でも共通するのが質問の多さです。先生が話している途中で何人も手を挙げて質問しようとして必死でした。フッドリバーでは、最初は言葉の違いと10日間通るのが不安でした。うまく会話できないこともありました。でも、途中から伝え方を変えて、ジェスチャーなどを加えて話すと通じることが増えて、たくさん会話できるようになりました。生活や食べ物など文化の違いも理解することができました。この体験は将来役立つかどうか分からないけれど本当に良い思い出になりました。地震があっても無事に帰ってくれたのは関わってくれた皆さんのおかげです。ありがとうございました。

わたしたち18人は、フッドリバー訪問団中学生大使として、3月11日に鶴田町を出発しました。しかし、途中の成田空港で地震があり、その影響で5時間遅れで出発することになりました。でも、無事に出発することができて本当に良かったです。到着してから予定が少しかわりましたが、ホストファミリーの方々が笑顔で迎えに来てくれてとても嬉しかったです。ホストファミリーと過ごした日々はとても楽しく、とても仲良くなることができました。ホストファミリーの一番の上の子のデナリと一緒に中学校に登校し、生徒や先生方が気軽に話しかけてくれて、みんなとても優しくかったです。放課後はローラースケートやボウリングなどをしてとても楽しい思い出ができました。

行ってきました！



一戸 魁人

ぼくは、フッドリバー親善訪問団としてホームステイしながらたくさんのお話を学びました。

ポートランド行きは飛行機を待っているときに東日本大震災にあつて、機内でも5時間も待ったり、着いたら着いたで添乗員の熊谷さんと団長の山本副町長さんが来ていなく、そこからたくさんハプニングがありフッドリバーに着いたのが予定の時刻より3時間以上過ぎていました。でも、フッドリバーの方は優しく笑って待っていてくれました。バスを降りあいさつをした後、それぞれのホストファミリーの人たちの家へ向かいました。ホストファミリーの人たちはとても優しく気軽に話しかけてくれるので、ぼくも自分から話しかけたりしてホストファミリーと打ち解けることができました。

2日目からはずっと時間が経つのが早くて一瞬のようになってしまう。ローラースケート、ボウリング、スノーボード、ショッピングなどたくさんのお話をしました。

さよならパーティーが始まる前までは、帰ってもいいかなと思っていたけれど、パーティーをしていくうちにフッドリバーであったことがたくさん頭をめぐって終わるころには帰りたいくらい気持ちよかったです。フットリバーに行くことができてすごく良かったです。



・さよならパーティーで

別れがるのが嫌でした



田澤 映梨

わたしはフッドリバーに行って、たくさん思い出ができました。

9日間フッドリバーで過ごして、特に楽しかったことは、外国の人とふれあつたことと、スキーにみんなで行ったことです。

ホストファミリーと話をしたり、買い物に行ったり、中学生といろいろなことをしてとても楽しかったです。でもその中で、何を言っているのかわからないこともたくさんありました。そんなときは、同じ家に泊まっている珠羅さんがいつも助けてくれました。とても感謝しています。

アメリカの中学校は規則があまりなく、日本の学校と違っていたのでびっくりしました。

スキーは8日目に行きました。友だちと滑って、とても楽しかったです。すごく急な斜面もめつて楽しめました。フッドリバーの皆さんはすごく優しくしてくれました。フレンドリーで楽しませてくれます。最後の日いろいろなことを楽しんだ分、ホストファミリーや友だちと別れるのが嫌で、寂しくなって泣きました。



・ホームステイ先で家族と

この9日間たくさん思い出ができました。フッドリバーに行って本当に良かったと思います。

ドキドキワクワクな体験



尾崎 陽菜

わたしは、とてもドキドキワクワクな気持ちでフッドリバーへ出発の日を迎えました。でもフッドリバーに着くまで大変なハプニングがありました。

その1つが地震です。成田国際空港でも揺れて天井からものが落ちてきてびっくりしました。日本に帰ってきてからそれがとても大きな地震（東日本大震災）だことがわかりました。

フッドリバーに着いたのは次の日の昼過ぎでした。ホストファミリーと会い、そのまま買い物に出かけました。ホストファミリーの第一印象はとても明るい家族だなと思いました。家族と一緒にポートランドに買い物に行つたときお母さんから香水をプレゼントされとても嬉しかったです。

中学校への登校でたくさんの友だちができました。放課後はローラースケートをして楽しみました。中学校でびっくりしたことはヒアスやマニキュアをつけている女の子が多かったことです。

最終日の前の日、フッド山でスキーをした後、サヨナラパーティーをして最後の交流を楽しみました。帰る日、みんなと別れるのが辛く、自然に涙があふれてきました。

この訪問で、英語でコミュニケーションをとったり、異文化を学んだりして、わたしにとって本当に貴重な体験になりました。

そして英語が大好きになりました。また絶対フッドリバーに行きたいです。



・ホームステイ先の家族と

訪問を振り返って



沢谷 勇哉

心に残っていることが3つあります。1つは成田空港で遭つた地震です。そのとき、ぼくたちはポートランド行きの飛行機に搭乗するときに、震度の5の強い揺れに遭い、天井の一部が落ちてくるなどパニックになりました。そのせいで飛行機内にも5時間待たされるという体験をしました。

2つ目はホストファミリーの温かさです。ぼくが泊まった家の方はチャパロさんという方で、初日の夕食は、日本からきたぼくたちのために豪華な魚料理や肉料理をたくさんつくってくれました。夕食後はお礼にチャパロさんの子どもに折り紙やけん玉を教えてあげました。

次の日は、ぼくたちを大きなダムに連れて行ってくれました。アメリカの道路は日本の3倍くらい広く渋滞もありませんでした。9日間も見知らずのぼくたちを泊めてくれたお食事も作ってくれたホストファミリーの温かさを感じました。ぼくもホストファミリーのような大きな心を持った人になりたいと思います。

3つ目は小学校訪問です。アメリカの小学校はパソコンで授業していません。大変驚きました。ぼくは中学生大使になれたことをうれしく思います。フッドリバーの皆さん、鶴田町の皆さん、その関係者の皆さん本当にありがとうございました。この経験を活かし世界に目を向ける大人になりたいです。



・フッドリバー消防署前で

フッドリバーの思い出



沢谷 周平

ぼくはフッドリバーに行って思い出に残ったことが3つあります。

1つ目はホストファミリーと一緒に大きなダムに行つたことです。ダムに行く車の中で眠ってしまったか覚えているけれど、ダムに入る前に危険物を持っていないかチェックされて、それからダムの中へ入るようです。ダムの中は広く車を移動しました。中にはショッピングのような所もあって楽しいところでした。

2つ目は、中学校です。フッドリバー中学校の生徒たちは、気軽に話しかけてくれて、とても仲良くなることができました。アメリカの中学生は堅苦しさがなく、先生も飲み物を飲みながら授業していました。学校の給食は生徒が自由に選べとてもいいなあと思いました。日本の中学校と違ってとても勉強になりました。

3つ目はマウントフッドでスキー・スノーボードをやつたことです。スキーかスノーボードを選択できて、ぼくはスノーボードに初めて挑戦しました。先生がついてくれて終わりのころには少し滑れるようになりました。このほかにいろいろな思い出がありますが、この思い出を忘れずこれからの生活に活かしていきたいです。



・ホームステイ先の家族と

忘れられない思い出



大林慎之介

ぼくたちは3月11日、東日本大震災が起きた日にフッドリバーへ出発しました。成田空港で震度6弱の地震に遭い5時間も待たされたがなんとフッドリバーへ行くことができました。フッドリバーでの10日間の中で、心に残ったことが3つありました。

1つ目は、ホストファミリーの心の温かさです。

ホストファミリーは、ぼくたちを家族の一員として温かく迎えてくれました。休日にはいろいろなところへ連れて行ってくれたり、体調を気遣ったりしてくれました。特に、地震のことを心配してくれて、なんとか日本の家族に連絡をとりあわせてくれました。本当に感謝しています。

2つ目は、フッドリバー中学校です。アメリカの中学校は日本とは全く違っていました。自由に立って歩いたり、携帯端末を自由に使っていました。中学校では、生徒たちが気軽に話しかけてくれたのでたくさん話せることができました。

3つ目は、マウントフッドでのスキーです。スキー場はとても広く6月半ばでもたくさん雪がありました。コースがたくさんあって楽しかったです。

この体験は一生忘れられない素晴らしい思い出になりました。またぜひフッドリバーへ行ってみたいです。



・訪問先の学校前で

また行きたい！



木村 奈桜

成田空港で、あと30分くらいで出発というとき衝撃があったので飛行機が何かにぶつかったかと思うくらい地震でした。空港内がざわめき、すぐにお母さんに電話すると鶴田も地震があったので停電になったことを知りました。行けないかもと思いながら、飛行機に乗って待っていました。5時間遅れで出発しました。こんなにも地震の被害が大きかったなんてその時は思いませんでした。

フッドリバーに着いて、皆さんが歓迎してくれて嬉しかったです。

わたしのホストファミリーは優しく頼りがいのあるお父さん、料理が上手で思いやりのあるお母さん、明るくて友だちが多いケイトリン、かわいくて笑わせてくれるベンの4人家族でした。一緒にホームステイした明日香さんが3月生まれで、わたしが4月生まれなので、サブライズでお母さんがケーキを作ってくれて、ケイトリンは友だちを呼んで誕生パーティーをしてくれました。

中学校では授業中に果物やお菓子を食べたり、女の子が化粧をしていたことに驚きました。数学や理科の授業を受けて、鶴中で習ったことを習っていたので、日本と同じようなことを習っているんだと思いました。

わたしにはアメリカにも大切な家族ができました。また会いに行きたいです。



・ホームステイ先で家族と

フッドリバー訪問で



渋谷 大志

フッドリバー訪問で特に印象に残っていることは、飛行機の機内と中学校訪問、そしてスキー場です。

まず飛行機のことですが、空港で地震が起きて、フッドリバーに行けないかもしれないと思い、すごく辛い思いをしました。でも機内で5時間待つた後、無事に離陸しました。到着後すぐの時差ぼけになって辛かったです。

ポートランドの空港に着いて、添乗員の熊谷さんと山本副団長さんが日本の空港に置いてけぼりにされたことで、ぼくは内心大丈夫かなあと不安になりました。大人は小山先生1人しかいない訪問団だったからです。でも、空港に日本語が話せるフッドリバーの方が待っていてくれたので安心しました。

2つ目は中学校訪問です。その理由は、授業中でも楽しくおしゃべりしたり、お菓子を食べたりしていたことです。また日本とは違い、あいさつをしただけで普通に笑って返してくれることです。すごく新鮮でした。音楽、理科、体育、そのほかたくさん先生の授業を受け、たくさん友だちができました。



スキー場は大きくて、広くて最高でした。気分爽快で、日本のスキー場とはスケールが何倍も違って、人もたくさんいるのですが広いのでいつも空いているように見えました。

ぼくは、フッドリバーであいさつの大切さや家族友人の大切さを学びました。

大震災を乗り越えて



引率教諭 小山さなえ

3月11日午後2時46分、ポートランド行き便が搭乗手続きをはじめたとき、みみしと音をたてて空港全体が揺れはじめました。「地震だ。」揺れはひととき大きくなり、大小の破片が落ちてくる中、女子生徒は大泣きし、男子生徒は興奮して大騒ぎでした。

最初の揺れがおさまって、生徒たちとわたしは飛行機に乗りました。座席に着くとすぐに2回目の大きな揺れが始まり、ゲートが封鎖され、連絡のため空港内に残っていた山本団長と添乗員の熊谷さんは、空港の外に退避させられました。

一方、機内で待機することになったわたしは、時折起こる余震を感じながら、この先どうなるんだろうと不安を募らせていました。となりの席の外国人は、インターネットで東北地方が大津波に襲われたことを知り「成田は大丈夫か？」と英語で訊ねてきたので「遠いから大丈夫です」と会話していたら、機内アナウンスがあり、飛行中止になったことを知りました。

生徒たちはがっかりして「鶴田に戻りたくない。」とつぶやいてしまうものもありませんでした。警備員の誘導を待つ間に機内食が配られ、こんな形で食べることになるかと思ってもみませんでした。そのとき、また機内アナウンスが流れ、「使用可能な滑走路があるという情報が入ってきたので、これから出発します。」と。機内はどよめき拍手が起きました。急いで機内食が片づけられ、午後8時30分わたしたちを乗せた飛行機が動き始めました。わたしはどきどきしていました。山本団長と熊

谷さんの席は空いたままだったからです。機体は方向を変え、加速し始めました。機体が浮き上がった瞬間機内は大きな拍手に包まれ、5時間遅れて私たちはアメリカに飛び立ちました。



左から、わたし、カルロス・トシコさん、フッドリバー市教育長、ニコル・ヤスイさん、山本副団長

